

緑の相談コーナーだより

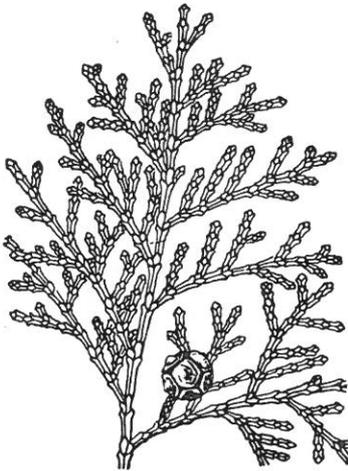
NO. 343 2014. 1. 1発行

岩見沢市志文町 794 番地

いわみざわ室内公園「色彩館」

身近な樹木“ヒノキ”（檜）

～宮殿などの建築材として最高級の重要な木～



ヒノキ
Chamaecyparis obtusa

ヒノキは日本特産のヒノキ科常緑針葉高木で、本州の福島県以南、四国、九州の屋久島までの山地に自生します。なお、広く植林もされていることから、本道においても見かけることがあります。ヒノキと並んで「木曾の5木」と称されるサワラ、アスナロ、ネズコ、コウヤマキなども十分に重要かつ重要な樹木なのですが、ヒノキの存在は突出しています。材への高い評価を越えて、宗教性と精神性を帯びているといっても過言ではありません。「日本書紀」の神話の中に「ヒノキは宮殿に使える」のくだりがあり、実際、多くの寺社や宮殿は、古くからこの木を建築に使用してきました。また、伊勢神宮では

20年に一度新しい宮殿を造りますが、その中でも重要なご神体を安置する「御樋代木」^{みひしろぎ}には木曾のヒノキを使うように指定されており、このヒノキは御神木といい、伐採する際には「御杣始祭」^{みそまはじめさい}という儀式を行ってから行なわれます。

そもそもヒノキは、秋田のスギ、青森のヒバ、木曾のヒノキといわれる日本三大美林のひとつとして、わが国を代表する樹木です。中でもヒノキは古くから日本の木造建築を連綿と支えてきました。その原点にあるのが、約1300年の歴史をもつ法隆寺です。「日本書紀」の完成（720年）とほぼ同じ時期の建立で、世界最古の木造建築として、1993年には世界文化遺産としても登録されました。ここ法隆寺の金堂や五重塔などにはほとんどヒノキが使われているのです。

植物名の由来ですが、火の木の意味で、大昔の人がこの木をこすりあわせて火を出したことからきています。このことから、今も伊勢神宮では、毎日神に捧げる食事を、ヒノキを用いておこした浄火をもって調整するといわれます。

材の用途と効用ですが、ヒノキの木材は緻密で堅く、腐りにくいことから日本固有の最優良建築材とされ、建物の柱や土台として用いられるほか、風呂桶や仏像、器具、卓球のラケットなど用途は多様です。また、樹皮は屋根用の^{ひわだ}桧皮ぶき材料として神社では飛鳥時代から用いられてきました。代表的なのが20年ごとに行われる伊勢の遷宮材で、10,000立方メートルの材はすべてヒノキ材を使用します。このため、木曾では遷宮に使う250年生の材を計画的に残すように造林しているのです。また、木の香りといえ、日本人はヒノキを思い浮かべますが、ヒノキの材や葉の成分にはリラックス効果だけでなく、院内感染の問題で注目されるMRSAの殺菌作用も認められています。

峡の雲はれゆく見れば桧木山



黒々として重なりにけり

島木赤彦



公園だより

バラ園

新年明けましておめでとうございます。ここ2～3年は豪雪の岩見沢でしたが、今年の冬はどのようになるのでしょうか。今のバラ園は、うっすらと積もった雪の中で、静かな年明けを迎えております。昨年は大雪の中で新春を迎え、その後も連日の雪に交通障害なども発生しましたが、今年はほどほどの雪で、平穏に過ぎるよう祈りたいと思います。それでも、モダンローズの中には比較的寒さに弱いものもあり、岩見沢のような多雪地域では、雪に覆われることで干寒害を回避している面もあります。ほどほどの厚さの雪布団をかぶって、春までゆっくり眠ってほしいものです。

今月のバラ園からの一口メモは、冬越し後の枝の切り詰めについてです。北海道では、冬剪定は行いませんので、雪解けとともにバラの手入れがスタートします。まず、この時の枝の切り詰め方ですが、前年伸びた分の2分の1～3分の2を目安に、よい芽の上5mmくらいで枝を切り詰めます。この時、樹勢の強い品種や高性の品種は深く切れますが、樹勢の弱い品種や矮性の品種は浅めに切ります。また、枝が直立する品種は、外芽（外側を向いた芽）の上で切っても、内芽（内側を向いた芽）の上で切っても、あまり問題がありません。しかし、枝が横に広がりやすい品種では、どちらに枝が伸びるか、花が咲いた時の樹形を考えて切りましょう。

色彩館では、サザンカの花にかわってツバキの花が咲き、新春の館内に色どりを添えております。若草色に映える芝生が外界の雪景色を忘れさせるようです。どうぞ一足早い春の雰囲気どうぞお楽しみ下さい。

南国温室では、南国の花々が咲き、ミカンなど柑橘類がオレンジ色に色づいております。ここは屋外とは別世界の感触をお楽しみ下さい。

相 談 日 記

問 近年、特に冬から早春にかけて、庭木や公園樹、果樹などが野ネズミやシカ、野ウサギなどの動物によって、樹木の樹皮が食害をうけて問題となっているようです。我が家でもツツジやモミジ、リンゴなどが被害を受けました。しかし、この樹皮食害は夏には全く見ることはありません。これら樹皮食害が冬から早春に集中するのは何故でしょうか？また樹皮食害を防ぐポイントなどについて知りたいのですが？

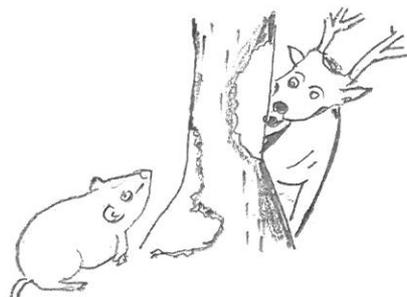
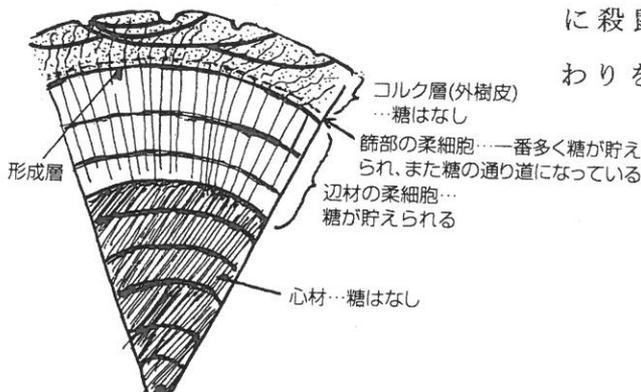
答 春の雪解け時期を迎えると、樹皮の食害がよく問題になりますが、これは圧倒的に冬期間に発生する被害と言えます。樹木は、夏の間は光合成でつくったエネルギーを春から夏までは成長に使い、秋からは越冬のために体にためこみます。冬は成長をやめ、寒さにじっと耐えています。この頃は、ほかに食べ物が無いということもありますが、樹皮が最も美味しい時期なので、動物たちが喜んで皮を食べるのです。

樹木の貯蔵養分は、幹・根・大枝・小枝・冬芽のそれぞれの生きた細胞に貯えられます。とくに樹皮に貯えられる量は多く、冬の樹皮は甘いので周皮の内側の篩部しぶを甘皮あまかわということがあります。形成層も生きた細胞ですが、ふつう、糖の貯蔵はしません。

樹木は春になると芽を吹き、枝を伸ばすために、貯めておいたエネルギーを使います。初夏の頃にはどんどん枝を伸ばし、幹を太らせるので、貯えられたエネルギーは少なくなって、樹皮も渋くてまずくなるのです。このため、この時期からの樹皮食害はほとんど起きないのです。

樹皮食害を防ぐポイント シカやウサギによる被害を防ぐには、市販の忌避剤を用いるほか、幹に金網などを巻いて防除します。野ネズミの場合は、庭園の周囲を清掃し、侵入を防ぐほか、晩秋および冬期間に殺鼠剤を用いて駆除します。また、根元まわりを金網などで覆うのも効果的です。

幹や枝の糖の貯蔵はどこに？



桜に似た気品のある花～サクラソウ 花言葉 希望に満ちる



サクラソウは、別名ニホンサクラソウともいわれ、耐寒性の強いサクラソウ科の多年草です。名前の由来は、サクラの花に似た花を咲かせる草という意味です。北海道、本州、四国、九州に分布し、河岸の原野や山間の低湿地に自生します。

野生種は、早春、葉よりも長い花茎を直立し紅紫色の花を数個咲かせます。江戸期から多くの園芸品種が作出、栽培され

るようになり、これらには花の色や形の変ったものが多く、その数 300 種といわれます。しかし、これらの品種は、ただ一種からの変異とされています。種名 *sieboldii* は長崎出島のオランダ商館つき医師であった、ドイツ人のシーボルトの名にちなみます。早春の鉢植えとして喜ばれることから、温室やフレームで栽培し、お正月頃から開花鉢が出回ります。購入する場合、花や品種名を確認しましょう。手入れのポイントは、寒さには強いのですが、暑さと乾燥を嫌うので、夏は日陰に置いて、水を切らないようにしましょう。

1～2月の園芸講座・行事案内

市民園芸講座の内容紹介

♣庭木・花木・果樹管理の基本

日時 1月26日(日) 13:00～15:00

講師 緑化相談員(樹木医) 泉征三郎 定員40人 参加料 無料



♣土壌と肥料管理のポイント

日時 2月18日(火) 13:00～15:00

講師 農業改良普及センター 普及指導員 さん 定員40人 参加料 無料

♣岩見沢公園の冬の森を見る

日時 2月23日(日) 9:30～12:00

講師 山野草研究家 北本 毅 さん 定員40人 参加料 無料



♣洋ラン栽培の楽しみ方

日時 2月23日(日) 13:00～15:00

講師 北海道蘭友会理事 阿部 春樹 さん 定員40人 参加料 無料

編集・発行 北海道グリーンランド(空知リゾートシティ株式会社)

お問い合わせは 室内公園「色彩館」緑の相談コーナー 25-6111 まで